

白木 賢信  
(東京家政大学)

## 【要旨】

本論文では、青少年の組織キャンプで使われる生活技術の習得時期と日常生活で使われる生活技術の習得時期の関係を分析する枠組を提出しその有効性を事例で検討した。枠組は、生活技術を生活の機能的領域で捉える軸と、生活技術の習得時期を捉える軸を組合せるもので、どのような生活技術がどのくらいの時期に習得されているかを分析しようとするものである。この枠組を事例で検討すると、キャンプで使われる生活技術のほとんどがキャンプ経験約4年以内に習得され、日常生活で使われる生活技術の習得時期はキャンプ経験約3年以降に集中している。

## 1. 目的

本論文は、青少年の組織キャンプ（以下、キャンプと表記）で使われる生活技術の習得時期と日常生活で使われる生活技術の習得時期の関係を解明するための分析枠組を提出して、その有効性についての検討結果を提示しようとするものである。

1998年、1999年には、(1)キャンプで使われる生活技術は、事前に計画されたキャンプ活動を実施しながら習得されるが、その活動はどのような活動であるのか、(2)(1)の活動で使われる生活技術は、実際にはどの程度うまく行使されているか（これを生活技術の遂行状況と呼ぶ）、という二点について事例で検討を行ったが、(1)については、衣食住を満足させる活動などの生物的機能維持を目指す活動にウエイトが置かれており<sup>1)</sup>、(2)については、食事に関する生活技術の場合、準備や備えに関する生活技術の遂行状況が最も低くなっていた<sup>2)</sup>。

しかし、これまでの検討では、衣食住を満足させるのに使われる生活技術の遂行状況は、キャンプ活動の中でキャンプで使われる生活技術を繰り返し用いて習得していくことで高くなるのか、キャンプに参加するまでに日常の生活技術を習得することで高くなっているのかなどがまだ分からない。また、キャンプ効果の面から、キャンプで使われる生活技術を習得することによって、日常生活で使われる生活技術のうち何か習得されたものがあるのかどうかについても未検討である。

これらのことを明らかにするには、キャンプで使われる生活技術習得と、日常生活で使われる生活技術習得の影響関係を明らかにする分析枠組を提出し、それを用いた分析を行う必要があるが、今回は影響関係までは取り上げず<sup>3)</sup>、差し当たり今回は、キャンプで使われる生活技術の習得時期と日常生活で使われる生活技術の習得時期の関係を分析するための枠組を提出して、その有効性の検討結果を提示することにしたい。

## 2. 研究方法

前述の目的を達成するために、今回は、キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期を分析する枠組を試案として提出して、その有効性を事例を用いて検討することにした。有効性の検討にあたっては、キャンプの継続的参加者のキャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期を事例に用いるが、そのデータ収集のために第1表のような調査を行った。

第1表 調査の概要

調査内容：キャンプで使われる生活技術の習得時期、日常生活で使われる生活技術の習得時期、属性（学年・性）、キャンプ参加歴、他
調査対象：キャンプの継続的参加者
被調査者：キャンプ指導者団体S主催事業の継続的参加者 <sup>4)</sup>
被調査者の抽出方法：有意抽出法 （第一段階）2000年および2001年に実施された主催事業参加者のうち、キャンプの継続的参加者16名を抽出した。 （第二段階）第一段階で抽出したキャンプの継続的参加者の野外炊事等の作業場面を観察し、キャンプで使われる生活技術を身につけている者3名を有意抽出した。
調査方法：面接法（自由面接法）
調査日および場所： （第1回調査）2001年10月14日、アイセル21（静岡市中央公民館・女性会館） （第2回調査）2001年10月27日、富士宮市市民文化会館 （第3回調査）2001年10月28日、被調査者の自宅
被調査者のプロフィール 第1回調査被調査者（以下、被調査者A）：高校2年生・女子、キャンプ初参加は1995年 第2回調査被調査者（以下、被調査者B）：高校3年生・女子、キャンプ初参加は1995年 第3回調査被調査者（以下、被調査者C）：中学3年生・男子、キャンプ初参加は1997年

## 3. 研究結果と考察

まず、今回提出する枠組は、第2表のように、生活技術を生活の機能的領域で捉える軸（表側）と、生活技術の習得時期を捉える軸（表頭）を組合せるものである。

第2表 キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期の分析枠組

		キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期					
キ で 使 わ れ る 日 常 生 活 生 活 術	生物的機能 維持の領域						
	秩序の維持の 領域						
	生活への意味 づけ・動機付 けの領域						

この表で、表側を生活技術を生活の機能的領域で捉える軸にするのは、これまでに提出した分析枠組と同じ考え方で生活技術を捉えておく必要があるため（具体的な項目は第3表を参照）<sup>9)</sup>、表頭のような時期の軸を設定するのは、キャンプで使われる生活技術が習得されてから日常生活で使われる生活技術が習得されるのか、キャンプで使われる生活技術の習得の前に日常生活で使われる生活技術の習得があるのかを捉える必要があるためである<sup>9)</sup>。この枠組を用いると、どのような生活技術がどのくらいの時期に習得されているかを捉えることができると考えられるが、それを事例で説明しながら枠組の有効性について検討しようと思う。

事例については、研究方法で述べたように、キャンプの継続的参加者を対象に調査を行ったが、第4表はその調査結果をまとめたものである<sup>7)</sup>。その見方について、表中のNo.19「作業の段取りの決め方（炊事）」を例に説明しよう。この生活技術は、生活の機能的領域でみれば、生物的機能維持の領域の衣食住に関する日常的な物質的満足のためのもので、炊事の仕方の一部の生活技術で、炊事に関する作業の段取りの決め方である。「キャンプで使われる生活技術(a)」の中の「習得者・習得の時期」の欄には、「A2001年頃（高2）」と「B1995年頃（小6）」となっている。これは、「作業の段取りの決め方（炊事）」について、被調査者Aは2001年頃、A自身が高校2年生の頃に習得し、被調査者Bは1995年頃、B自身が小学6年生の頃に習得したことを示している。また、Bの右隣の欄には右向きの矢印が付いており、その右隣には「クラスで行う作業の段取りの決め方」とあり、そのさらに右隣には「1999年頃（高1）」と記されている。これは、被調査者Bは、キャンプで「作業の段取りの決め方（炊事）」を習得したあとで、日常生活で「学校のクラスで行う作業の段取りの決め方」を習得したことを示し、その時期は1999年頃であることを表している。

第4表の調査結果を第2表の枠組に当てはめると、第5～8表のようになる。第5表は、生活の機能的領域でみたキャンプで使われる生活技術と、キャンプで使われる生活技術の習得時期を組合せた枠組である。ここでいう習得時期はキャンプ経験年数であるが、キャンプに初めて参加してから何年かという1年単位で捉えている。表中のセルには、1人あるいは1項目でも該当すれば○印が付けられる。第6表は、第5表を日常生活で使われる生活技術について作成した枠組で、第5表、第6表の枠組でみれば、キャンプで使われる生活技術のほとんどが参加者がキャンプを始めて約4年以内に習得され、日常生活で使われる生活技術の習得時期は参加者のキャンプ経験約3年以降に集中している。第7表は、表頭のキャンプで使われる生活技術の習得時期を学年で捉えたもので、第8表は、それを日常生活で使われる生活技術にしたものである<sup>9)</sup>。

今回は3名のデータであるので、本格的な分析は今後の課題になるが、これらの枠組を用いることで、キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期の関係は、キャンプ経験年数や習得時の学年でみればどのようなものであるかを捉えることができるであろう。その他、例えば、キャンプで使われる生活技術の習得後、どのくらい経つと日常生活で使われる生活技術が習得されるのかという観点を入れた枠組なども考えられる。

#### 4. 今後の課題

今後は、キャンプの継続的参加者のデータをさらに収集して分析を行いながら、今回試

第3表 キャンプで使われる生活技術

No	生活の機能的領域	キャンプで使われる生活技術	No	生活の機能的領域	キャンプで使われる生活技術
1	(衣食住に関する日常的な物質的満足)	設営の仕方	54	(衣食住に関する日常的な物質的満足)	ト米の炊き具合の確認・調整の仕方
2		ト作業の段取りの決め方	55		ト炊き上がりの確認の仕方
3		ト役割分担の仕方	56		ト水の補充の仕方
4		トテントの張り方	57		トコッヘルのかまどからのはずし方
5		トテント周りの整地法	58		ト米以外の料理の仕方
6		トテントの組立方	59		ト材料の切り方
7		トタープの張り方	60		ト包丁の使い方
8		トロープ結索法	61		ト調理の仕方
9		トかまどの作り方	62		ト配膳・食事の仕方
10		ト石の運び方	63		ト料理のとりわけ方
11		ト石の積み上げ方	64		ト食器の並べ方
12		トテーブルの作り方	65		ト食器の使い方
13		トテーブル周りの整地法	66		ト後片づけの仕方
14		トいすの作り方	67		ト食卓の片づけ方
15		トいすの周りの整地法	68		ト食器の洗い方
16		ト杭の打ち方	69		ト汚れの落とし方
17	トロープ結索法	70	ト洗剤の使い方		
18	炊事の仕方	71	ト水滴の取り方		
19	ト作業の段取りの決め方	72	ト食器の片づけ方		
20	トかまどの使い方	73	トごみ処理の仕方		
21	ト消火の準備の仕方	74	トごみ分別の仕方		
22	ト水の準備の仕方	75	ト残飯処理の仕方		
23	ト砂または土の準備の仕方	76	撤収(後片づけ)の仕方		
24	ト点火の準備の仕方	77	トトイレの使用法		
25	ト薪置き場の作り方	78	トシュラフの使い方		
26	トつけ木・焚き付けの作り方	79	野宿の仕方		
27	ト焚き付けの作り方	80	トシェルターの作り方		
28	ト枯枝の探し方・集め方	81	トビパーク地の整地法		
29	ト枯枝の折り方	82	トロープ結索法		
30	ト薪の割り方	83	ト屋根の張り方		
31	トなたの使い方	84	ト寝床の作り方		
32	ト薪の保管の仕方	85	トシェルターの片づけ方		
33	ト薪の分類の仕方	86	(健康の維持)	害虫の予防の仕方	
34	ト雨などからの保護の仕方	87		防寒具の着方	
35	ト点火の仕方	88		雨具の着方	
36	ト火床の乾かし方	89	秩序の維持の領域	グループのメンバーとの交流の仕方	
37	ト火床の作り方	90		グループ内の約束事の作り方	
38	ト焚き付けの組み方	91		グループで起こった問題の解決の仕方	
39	トつけ木・薪の組み方	92		キャンプ場のルールの守り方	
40	ト火の火床への入れ方	93		係の決め方	
41	ト火の調節の仕方	94		生活への意味づけ・動機づけの領域	キャンプファイアーの仕方
42	ト薪の補充の仕方	95			ト薪組の仕方
43	ト空気の入れ方	96			トゲーム・スタンプの仕方
44	ト火の消し方	97		自由時間での遊び方	
45	ト火の置き散らし方	98		登山の仕方	
46	ト炭のまとめ方	99		釣りの仕方	
47	ト灰の処理の仕方	100		MTB等自転車の乗り方	
48	ト残木の処理の仕方	101		野草の採集方法	
49	ト米の炊き方	102		工作(クラフト)の仕方	
50	ト米の洗い方	103		沢・川での行動の仕方	
51	ト水のコッヘルへの入れ方	104		活動記録の作り方	
52	トコッヘルのかまどへのかけ方	105		活動発表の仕方	
53	トコッヘル内の残水の確認の仕方	106		集い(セレモニー)の仕方	

第4表 キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得の時期

No.	生活の機能的領域	キャンプで使われる生活技術(a)	習得者・習得の時期※	(a)と(b)の関係※※	日常生活で使われる生活技術(b)	習得の時期※																													
7	生物的機能維持の領域 (衣食住に関する) 日常的な物質的満足)	タープの張り方(設置)	C1997年頃(小5)																																
8		└ロープ結索法	C2000年頃(中2)																																
19		作業の段取りの決め方(炊事)	A2001年頃(高2)																																
26		つけ木・焼き付けの作り方(かまど)	└焼き付けの作り方 └枯枝の探し方・集め方 └枯枝の折り方 └薪の割り方 └薪の使い方 └なたの使い方	B1995年頃(小6)	→	学校のクラスで行う作業の段取りの決め方	1999年頃(高1)																												
27				点火の仕方(かまど)	└火床の乾かし方 └火床の作り方 └焼き付けの組み方 └つけ木・薪の組み方 └火の火床への入れ方	C1997年頃(小5)																													
28						火の調節の仕方(かまど)	└薪の補充の仕方 └空気の入れ方	C1997年頃(小5)	→	家での料理の仕方	1998年頃(小6)																								
29								米以外の料理の仕方	└材料の切り方 └包丁の使い方 └調理の仕方	A1998年頃(中2)	→	家での料理の仕方	1999年頃(中3)																						
30										ごみ処理の仕方(食事後)	└ごみ分別の仕方 └残飯処理の仕方	B1996年頃(中1)	→	家での料理の仕方	1998年頃(小6)																				
31												C1997年頃(小5)	←	家での包丁の使い方	不明																				
35																A1998年頃(中2)	→	物(文房具など)の節約の仕方	1999年頃(中3)																
36																				C1997年頃(小5)															
37																								C1998年頃(小6)											
38																												C1998年頃(小6)							
39																																C1998年頃(小6)			
40																																			
41		(睡眠、健康維持)	ロープ結索法(野宿用のシェルター)	C1997年頃(小5)																															
42			防寒具の着方	C1998年頃(小6)																															
43			雨具の着方	C1998年頃(小6)																															
58			秩序の維持の領域	グループのメンバーとの交流の仕方	A1999年頃(中3)	←	部活・クラスでの交流の仕方	1998年頃(中2)																											
59	グループで起こった問題の解決の仕方			B1997年頃(中2)	→	新しい友達との交流の仕方	2000年頃(高2)																												
60								C1998年頃(小6)	→	進級時の新たな友達との作り方	1999年頃(中1)																								
61	係の決め方		A1998年頃(中2)	→	部活での問題解決の仕方	1999年頃(中3)																													
73							B1999年頃(高1)	→	クラスでの話し合いの仕方	2001年頃(中3)																									
74	C1999年頃(中1)																																		
75						B1999年頃(高1)	→	クラスで行う作業の役割分担の仕方	2000年頃(高2)																										
82	C1999年頃(中1)																																		
87						C1999年頃(中1)																													
88	C1999年頃(中1)																																		
89						ゲーム・スタンプの仕方(キャンプファイヤー)	C1998年頃(小6)	→	学校の授業等での発表の仕方	2001年頃(中3)																									
91	登山の仕方		B1997年頃(中2)	→	荷物の多い時の運び方						2000年頃(中2)																								
96						MTB等自転車の乗り方	C1997年頃(小5)	→	登校時等での自転車の乗り方	2000年頃(中2)																									
98	活動発表の仕方		C1997年頃(小5)	→	学校の授業等での発表の仕方						2001年頃(中3)																								
100						C1997年頃(小5)																													
105	C1997年頃(小5)																																		

※ここでは、(a)または(b)の習得が本調査で判明されたもののみ記入されている。習得者は被調査者の記号、習得時期は西暦(当時の学年)で示した。  
 ※※ここでは、(a)の習得のあとで(b)の習得があった場合を→、(b)の習得のあとで(a)の習得があった場合を←としている。

第5表 キャンプで使われる生活技術の習得時期－キャンプ経験年数の場合－

		キャンプで使われる生活技術の習得時期(キャンプ経験年数)													
		1年未満		1年以上		2年以上		3年以上		4年以上		5年以上		6年以上	
		同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他
キャンプで使われる生活技術	生物的機能維持の領域	○	○a)					○	○b)						
	(衣食住に関する日常的な物質的満足)														
	(睡眠や排泄など生物的動因の解決)														
	(健康の維持)														
	秩序の維持の領域			○		○		○		○					
	生活への意味づけ・動機づけの領域		○c)	○					○d)						

- a) 秩序の維持の領域
- b) 財・サービスの生産・分配の領域
- c) 財・サービスの生産・分配の領域
- d) 財・サービスの生産・分配の領域

第6表 日常生活で使われる生活技術の習得時期－キャンプ経験年数の場合－

		日常生活で使われる生活技術の習得時期(キャンプ経験年数)													
		1年未満		1年以上		2年以上		3年以上		4年以上		5年以上		6年以上	
		同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他
日常生活で使われる生活技術	生物的機能維持の領域			○						○					
	(衣食住に関する日常的な物質的満足)														
	(睡眠や排泄など生物的動因の解決)														
	(健康の維持)														
	財・サービスの生産・分配の領域							○a)		○b)					
	秩序の維持の領域				○		○		○	○c)	○				
	生活への意味づけ・動機づけの領域						○								

- a) 生活への意味づけ・動機づけの領域
- b) 生物的機能維持の領域(衣食住に関する日常的な物質的満足)
- c) 生物的機能維持の領域(衣食住に関する日常的な物質的満足)

第7表 キャンプで使われる生活技術の習得時期－学年の場合－

		キャンプで使われる生活技術の習得時期(学年)															
		小学5年		小学6年		中学1年		中学2年		中学3年		高校1年		高校2年		高校3年	
		同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他
キャンプで使われる生活技術	生物的機能維持の領域 (衣食住に関する日常的な物質的満足)	○			○a)			○	○b)								
	(睡眠や排泄など生物的動因の解決)																
	(健康の維持)																
	秩序の維持の領域				○		○		○			○					
	生活への意味づけ・動機づけの領域		○c)	○				○	○d)								

- a)秩序の維持の領域  
 b)財・サービスの生産・分配の領域  
 c)財・サービスの生産・分配の領域  
 d)財・サービスの生産・分配の領域

第8表 日常生活で使われる生活技術の習得時期－学年の場合－

		日常生活で使われる生活技術の習得時期(学年)															
		小学5年		小学6年		中学1年		中学2年		中学3年		高校1年		高校2年		高校3年	
		同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他
日常生活で使われる生活技術	生物的機能維持の領域 (衣食住に関する日常的な物質的満足)			○						○							
	(睡眠や排泄など生物的動因の解決)																
	(健康の維持)																
	財・サービスの生産・分配の領域							○a)		○b)							
	秩序の維持の領域				○		○		○			○c)	○				
	生活への意味づけ・動機づけの領域								○								

- a)生活への意味づけ・動機づけの領域  
 b)生物的機能維持の領域(衣食住に関する日常的な物質的満足)  
 c)生物的機能維持の領域(衣食住に関する日常的な物質的満足)

案として提出した枠組の有効性について検討を加えていく必要がある。またデータ収集法にあっても、キャンプの継続的参加者がキャンプで使われる生活技術をどのように習得しているか、さらにそれによって日常生活で使われる生活技術をどのように習得しているかを追跡的に捉える方法を検討する必要もあるが、これも今後の課題の一つである。

#### 注記・引用文献

- 1) 拙稿「青少年の野外教育における生活技術習得活動の分析枠組」(『日本生涯教育学会論集』19、pp.57-66、1998)。具体的には、食事作り、テント張り、野外炊飯のためのかまど作りなどがキャンプでいう衣食住を満足させる活動である。
- 2) 拙稿「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析―食事の場合―」(『日本生涯教育学会論集』20、pp.133-140、1999)。
- 3) このことについては、別の機会に改めて述べることにしたい。日常生活で使われる生活技術を新たに習得することだけではなく、今まで使っていた生活技術を変容させたりすることなど、生活様式の変容も視野に入れておきたいが、今回はそれは取り上げない。
- 4) この主催事業は毎年夏季に実施されるキャンプで、継続的参加者はこれに4年連続で参加している者としている。キャンプでは、参加者は8人前後の男女学年混合のグループに分かれ、各グループに担当指導者1名が配置されている。キャンプ生活は全日テント泊で、炊事はほとんどがキャンプ場に設置されたかまどを使用した裸火による野外炊事である。キャンププログラムについては、前掲「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析―食事の場合―」を参照。
- 5) 本研究では、生活技術を、生活に必要な機能的条件を遂行するための技術、行動の仕方として捉えている。これまで、目的で述べた(1)の検討については、生活に必要な機能的条件の考え方による生活技術習得活動の分析枠組を提出し(前掲「青少年の野外教育における生活技術習得活動の分析枠組」を参照、生活の必要な機能的条件については、Bennett, John W. & Tumin, Melvin M., *Social Life: Structure and Function*, Alfred A. Knopf, New York, 1949, pp.45-59を参照。)、(2)の検討については、技術論の研究成果を手がかりに生活技術遂行の分析枠組を提出した(前掲「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析―食事の場合―」を参照)。
- 6) 表頭の時期について、今回は1年単位としたが、それはキャンプの実施時期が夏季に集中しているからである。
- 7) 日常生活で使われる生活技術の習得時期については、本来、日常生活における全ての活動からその習得時期を探る必要があるが、今回はまずキャンプで使われる生活技術の習得とのかかわりで取り上げることにしている。また目的でも述べたように、日常生活で使われる生活技術の習得がキャンプで使われる生活技術の習得に影響していることも考えられるが、影響関係までは捉えず、日常生活で使われる生活技術のうち何か使うことができるようになったあとで、キャンプで使われる生活技術を習得したのがあるかどうかで捉えている。
- 8) 生活技術によっては、キャンプ・日常生活ともに同領域のものもあれば、他の領域に影響し合うものもあろう。この領域のずれは注目すべき点で、今後詳細に検討する必要があると考えられるので、表頭の各欄に「同」と「他」の2つの欄を設けている。